

## スーダン\*

国際動向・戦略分析グループ 研究員 小林良和

### 1. サマリー

#### (1) スーダンのエネルギー事情

##### a. 世界における位置づけ

- 石油埋蔵量は世界の0.5% (2004年末) に過ぎないが、石油生産量はここ数年急速に拡大してきており、2005年には50万b/dに達するとみられている。

##### b. エネルギー需給

- 2003年における一次エネルギー総供給量133百万トンのうち、石油の構成比は18.8%、天然ガス、石炭、原子力は0%、水力は0.6%、その他再生可能エネルギーは80.6%であった。
- 2004年末時点の石油確認可採埋蔵量は63億バーレル、天然ガス確認可採埋蔵量は3兆立方フィート。
- 2004年の石油生産量30.1万B/Dは2003年比18.0%の増加。その内、輸出は22.7万B/Dで2003年比22.5%増。

##### c. エネルギー政策担当機関

- 国内エネルギー分野の所轄官庁はエネルギー鉱物省 (Ministry of Energy and Mining) である。
- 2004年1月にスーダン政府とスーダン人民解放運動 (The Sudan People's Liberation Movement: SPLM) との間で締結された「富の分配協定 (Agreement on Wealth Sharing)」は、国内のエネルギー政策に関する最高意思決定機関として北部 (スーダン政府) と南部の代表者からなる国家石油委員会 (National Petroleum Commission) の創設を規定しているが、まだ実現には至っていない。

##### d. 基本政策

- スーダンのエネルギー部門における基本政策は以下の2点：
  - ① 国内石油資源の開発・生産の促進と輸出収入の拡大
  - ② 電力普及率向上のための発電能力・インフラの整備

#### 産油能力拡大計画

---

\*本報告は、平成17年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

- 2004年の原油生産量は30万b/dであったが、2005年には50万b/dまで増加する見込みである。

#### 外資参入状況

- 人権抑圧の問題から国際批判を浴びているスーダンに対して西側の国際石油会社は投資を行うことに及び腰である。一方で中国、マレーシアなどの国営石油会社はスーダンの上流・下流部門ともに活発に投資を進めている。

#### e. 石油・ガス産業

- 国営石油会社であるスーダン石油公社 (Sudan Petroleum Company: Sudapet) が国内の石油事業全般の操業を行っている。

#### f. 最近の主な動向

- 2005年1月9日、スーダン政府と南部勢力の代表の SPLM が包括和平合意に調印し、20年以上にわたる長い内戦状態に一応の終止符を打った。
- フランスの Total は1980年代よりスーダン南部のB鉱区に権益を保有していたが、このB鉱区の権益の一部が SPLM によって英国 White Nile 社に与えられたため、現在両者の間で紛争が発生している。
- 2005年7月、ガラン前第一副大統領 (SPLM の元代表) がヘリコプター墜落事故により死去した。

#### g. わが国との関わり

- 2004年におけるわが国のスーダン原油の輸入量は440万klで、総石油需要の1.8%であった。アフリカからの輸入ではナイジェリアについて第2位の原油輸入先となっている。

### (2) エネルギー事情 (2003年)

a. 一次エネルギー供給量	16.62 石油換算百万トン
b. 1人当り一次エネルギー供給量	0.50 石油換算トン/人
c. エネルギー自給率	162.30%
d. エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 (2002年)	323.25 二酸化炭素百万トン
e. 1人当りエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 (2002年)	5.01 二酸化炭素トン

## (3) スーダンの主要エネルギー指標 (2003年)

(1)	一次エネルギー供給量	16.62 石油換算百万トン	
(2)	1人当り一次エネルギー供給量	0.50 石油換算トン/人	
(3)	GDP 当り一次エネルギー供給量	1.14 石油換算トン/千ドル	
(4)	エネルギー自給率	162.3%	
(5)	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (2002年)	323.25 CO <sub>2</sub> 百万トン	
(6)	1人当りエネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (2002年)	5.01 二酸化炭素トン/人	
(7)	一次エネルギー供給構成	石炭	0.0%
		石油	18.8%
		ガス	0.0%
		原子力	0.0%
		水力	0.8%
		再生可能エネルギー等	80.6%
(8)	エネルギーの輸入依存度 (エネルギー純輸入量/TPES)	-61.5%	
(9)	石油の輸入依存度 (石油の純輸入量/石油の一次供給量)	-326.4%	
(10)	輸入原油の中東依存度	該当数値なし	
(11)	原油輸入先	該当数値なし	

(出所) (1)~(4)および(7)は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2002-2003; (5)~(6)は IEA, CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion 1971-2002 を参照。

お問い合わせ : [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)